

## 伐木技術普及研修【県北ブロック】の開催について

### 1 はじめに

林業は、他産業に比べて労働災害の発生頻度が高く、中でも伐木作業中における割合が多くを占めています。そのため、林業従事者の伐木技術の向上を図り、労働災害を未然に防止することが重要となっています。

そこで、当室では、県北広域振興局管内の伐木作業者を対象とした伐木技術普及研修を開催しましたので、その概要を報告します。

### 2 研修内容

10月24日、九戸村において、2名の岩手県伐木技術指導員を講師に招き、2事業体から5名、九戸村地域おこし協力隊から2名の計7名が参加して、研修を実施しました。

#### (1) 伐倒練習の前に

研修の前半は、服装等の確認にはじまり、チェーンソーのメンテナンス・目立てを重点的に行いました。適切な整備・目立ては、安全作業に直結し、身体への負担軽減、作業効率のアップにも繋がります。その後、伐倒の練習用丸太の上にチェーンソーを置き、ガンマークを伐倒方向に合わせる確認を行いました。



#### (2) 伐倒練習機を用いた受口・追口の作成

研修の後半は、伐倒練習機を用いて、受口・追口の作成を行いました。今回の研修では、45度の受口を作り、突っ込み切りで追い口を入れ、最後に追いヅル切りを行い、3cm角のツルを作る設定で行いました。作業後、会合線から伐倒方向に糸を張り、15m先の目標とのズレを確認しました。研修生からは伐倒のクセが分かった等の感想がありました。



伐木中の労働災害は、会合線が正確でなかったり、ツルが正しく作用していないために起こることが多く、いかに正確な会合線、ツルを作れるかが、安全に作業するうえで重要であるか指導がありました。

### 3 終わりに

今回の研修内容は、12月10日に開催された「労働災害防止のための集団指導会」(会場：ツガワ未来館アピオ(滝沢市))において報告し、研修への積極的な参加を呼びかけました。

研修に参加することで、必ず「気付き」があり、明日からの作業に活かすことで、作業の安全、効率化に繋がるはずです。

当室では、引き続き、伐木技術の向上支援に取り組んでいきます。